

## 会 議 録

会議名 (付属機関等名)		平成25年度 第2回川西市都市景観形成審議会	
事務局(担当課)		都市整備部 まちづくり政策室 都市計画課	
開催日時		平成25年10月24日(木)午後2時～午後4時20分	
開催場所		川西市役所4階庁議室	
出席者	委員	出席:澤木委員・平田委員・中江委員・栗山委員・李委員・ 森島委員 欠席:黒坂委員	
	その他	なし	
	事務局	福本・野村・萩倉・角田・水野	
傍聴の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数 0人
傍聴不可・一部不可の場合、その理由			
会議次第		議 題 (1)議案第1号 川西市景観計画の策定について (基本理念と類型別方針の検討)	
会議結果		(1)議案第1号 審議経過のとおり	

## 審 議 経 過

事務局	<p>お待たせいたしました。定刻になりましたので、ただ今から、平成25年度 第2回「川西市都市景観形成審議会」を開催させていただきます。本日の司会進行をさせていただきます、都市整備部まちづくり政策室長の野村です。よろしくお願いいたします。それでは、開催にあたりまして、澤木会長よりご挨拶を申し上げます。澤木会長、よろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>皆さま、こんにちは。本日はお忙しいところ、第2回都市景観形成審議会にお集まり頂きますありがとうございます。</p> <p>今日の議題は「川西市景観計画の策定について」で、いよいよ中身の議論に入っていくこととなります。基本理念や類型別景観まちづくりの方針等についてご意見を頂きたいと思っています。皆さまにはそれぞれご専門の立場からのご意見を賜りますよう、よろしくお願いいたします。それでは、事務局から出席の報告をお願いします。</p>
事務局	<p>委員の出席についてご報告させていただきます。委員7名のうち、本日もご出席頂いておりますのは6名です。従いまして、半数以上の出席を得ておりますので、川西市都市景観形成審議会規則第6条第2項の規定に基づき、本日の審議会は成立いたしましたことをご報告申し上げます。</p> <p>これより議事進行につきましては澤木会長にお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
議長	<p>議事次第に従って議事を進行させていただきます。16時を終了の予定としています。</p> <p>今日の議題は「川西市都市景観計画の策定について(基本理念と類型別方針の検討)」です。合わせて市民アンケートについてもご意見ををお願いします。また、9月にワークショップが開催されており、その経過についても報告があると思います。</p> <p>景観計画の本編と市民アンケート、ワークショップ等について、事務局から一括で説明をお願いします。</p>
事務局	(事務局説明)
議長	<p>ありがとうございました。議論の進め方について、まず資料4で説明頂いたワークショップと景観展について質疑があればお伺いします。その後に本編の議論、最後に市民アンケートについてのご意見をお伺いするというので、大きく3つに分けて進めていきます。</p> <p>最初はワークショップと景観展について質問等がありましたらお願いします。参加者の人数が出ていますが、年齢やお住まいの地域、ご職業など、また普段景観について活動されている方が参加されていたかなどの情報はありますか。</p>
事務局	<p>会社員の方や市民団体の方、河川の清掃活動をされている方、また前回紹介した、市北部のエドヒガン桜の保護活動をされている方などの参加がありました。</p>
議長	<p>公募で集められたのですか。</p>
事務局	<p>インターネットや広報などにより公募しています。また、これまでの写真展や絵はがき展に応募頂いた方にダイレクトメールで案内しています。今回初めて参加頂いた女性の方もおり、常連の方と新しい方が参加して開催したという状況です。</p>

議長	(景観ワークショップ)かわら版の写真では30代から70代まで年齢層がばらついていると感じます。
事務局	お年寄りの方が多いと思っていましたが、幅広い年齢層の方が来られていました。
議長	ワークショップは3回で終結しているのですか。
事務局	計3回で一連のまとめをして終えています。
議長	景観計画の本編についてご質問やご意見をお伺いしたいと思います。 説明はありませんでしたが、「2-3 市民の意識」は(1)だけとなっています。市民アンケートなどの結果が続いて入るということによろしいでしょうか。
事務局	具体的に考えていませんでした。ワークショップやアンケートの結果を入れ、課題の抽出などにつなげたいと思います。
議長	頭から順に質問や意見を伺い、前の章にも戻ることもしつつ進めていこうと思います。第1章のタイトルは「景観計画の目的」という感じでしょうか。第1章について質問やお気づきの点などご意見をお願いします。
委員	2点あります。1点目は景観計画の中でよく使われている「平日の日常的な景観」と「休日の非日常的な景観」という表現について、休日も暮らしの一部で日常であり、休日を非日常扱いしてしまうのは表現として違和感があります。「平日の日常的な景観」と「休日の非日常的な景観」というキーワードが多く散りばめられていますので、表現の精査が必要だと思います。
議長	その表現は第2章から出てきていますか。
委員	第1章4ページのコラム欄から出てきます。第2章以降にも多く出てきます。 2点目は、6ページの「計画の位置づけ」の中の「適合する」、「整合する」、「調和する」の言葉の使い分けについてです。使い分けを特に意識していないのであれば、1つの言葉に統一するほうが良いと思います。
議長	1点目の表現については、第2章以降での議論でご意見頂きたいと思います。 2点目のそれぞれの用語は、法律に定められている用語になりますか。
事務局	景観法第8条では、市町村の建設に関する基本構想に「即する」、都市計画の方針に「適合する」、関連計画のすべてではありませんが、環境基本計画に「調和する」とあります。「整合する」という表現はありませんが、一般的な表現として書いています。ここは一言で「整合する」とするだけのほうが良いと思います。
議長	文章では、景観計画は総合計画に即するとしていますが、図では都市計画マスタープランが総合計画に即しており、関係がおかしいと思われます。

事務局	都市計画マスタープランも総合計画に即するため、図としてまとめるとそのようにしています。しかし、景観計画と総合計画は直接つながる関係ですので、そのようにするのが正しいと思います。
事務局	6ページに関連して、平成 26 年度を基準年次とすると目標年次は平成 35 年度だと思われます。
議長	訂正ということによろしいですか。
事務局	基準年次が平成 27 年度の誤りです。
事務局	景観計画は2年をかけて策定する予定ですので、基準年次は平成 27 年度ということであれば、目標年次は平成 36 年度ということで合っています。
委員	現在の策定の流れは、ワークショップをし、計画を検討し、アンケートをする順序となっていると思います。一般的に社会的な合意形成を得る場合、その取り組みはワークショップなどのPU(Public understanding)により人々の共通理解を得て、内容を整理し、次にアンケート調査などのPI(Public involvement)により人々の意見を吸い上げます。PUとPIに基づき人々に参加の意識や責任を持ってもらうPC(Public consensus)が一体になって運用されます。
議長	PIとして来年度、原案のパブリックコメントを行う予定となっています。
委員	パブリックコメントの順序はそれで良いと思います。
議長	市民アンケートとワークショップは原案をつくるために実施するという事で良いですか。
事務局	課題を抽出することも含めて実施します。 パブリックコメントや説明会等も開いて、原案に対する意見を聞き、反映していくこととしています。
委員	社会的合意形成の取り組みは、例えば、地域の景観を良くするとかの具体的な事業を設定してから行います。 今回の景観計画の具体的な目的や喫緊の課題としては、どのようなものがありますか。本編で課題が書かれていますが、具体的な喫緊の課題ではないと感じます。
事務局	喫緊の具体的な課題はないと思っています。
委員	一般的なまちづくりの課題として、住民が自分のまちに愛着を持ってない、魅力を感じないことが挙げられます。また、商業者や来訪者は、例えば、観光が課題であり、景観を良くして観光客を増やしてほしいとか、訪れたい街の魅力を増やしてほしいなど具体的な要求がある場合に、景観事業を積極的に取り組むことの動機となります。 本編の課題では喫緊の課題がないように感じますが、例えば、観光地がだめになった

	とか生活環境が悪くなったなど、具体的な課題はありますか。
事務局	<p>川西市は住宅都市なので、住民に住んでもらわないといけません。新しく移り住んだ方がほとんどで、いかに愛着を持ってもらうかが課題となります。また、川西市は阪神間で高齢化が一番高い市であり、山手は急な坂の地形となっているため、大都市部に人が流れていくのではないかとこの心配がある状況です。ニュータウンなどが高齢化している背景があり、焦りと危機感を感じています。</p> <p>そのため、ハイグレードではなく中程度であっても、よりきれいな環境を形成するという思いがあり、それが結局、市民の幸せな環境につながることを訴える必要があると考えています。このことを総合計画の将来像を引用して浸透させたいという思いがあります。</p>
議長	次に、5ページの「計画の目的」について、総合計画から引用している内容が多く、担当者の強い意図が感じられないため、先ほどの質問があったのかなと思います。
委員	「市民」という言葉が多く使われていますが、市民をどの範囲で考えていますか。
事務局	市民と住民は異なり、住民とは住民票を置いている方、市民とは在住、在勤、利用者を含めるという定義としています。市民には来訪者を含めているという思いがあります。
議長	<p>どこかで定義がいますかと思えます。</p> <p>5ページでは市民・事業者と書いており、事業者は市民の概念から外していると捉えることとなります。</p>
事務局	特に市民の中の事業者という位置づけで考えています。
議長	言葉の使い方を統一して頂きたいと思えます。
委員	市民や住民が減少している中で、例えば今後来てほしいターゲットは考えていますか。
事務局	景観計画を目にしてもらった時に、川西市についてもっと知ってほしいという考えはあります。
委員	若い世代にも、住んでみませんかと伝えることができれば良いと思えます。
事務局	興味を持ってもらいたいという視点で書いていきたいと考えています。出て行くのを防ぐだけではなく、来たいと思う方を増やさないといけないと思っています。
委員	住民や商売する方を呼び込むための戦略があるならば、それとの対応を景観計画に位置づけると、具体性が出てくると思えます。関連した戦略等がありますか。
事務局	都市ブランド戦略の検討を進めているところです。住宅都市として住みたい・住み続けたいまちを目指すというスタンスとしており、それとの関連は書けると思えますので、もう少し加えていきたいと思えます。
委員	本編は、川西市という言葉が無ければどの都市でも成り立つだろうと感じます。市の狙

	<p>いがあり、景観計画とリンクして説明があれば、アピールできる文章になると思いますので、可能であれば含めて頂きたいと思います。</p>
議長	<p>5ページの「景観の目的」の中でも、もう少し景観担当者の思いのこもった文章として頂きたいと思います。</p>
事務局	<p>総合計画では「幸せものがたり」という副題とし、幸せの向上という面が表に出ており、本編にも色濃く出てしまっているところです。幸せというと一般的な印象なので、より具体的な内容を充実するのが良いと思います。</p>
議長	<p>少し考えて頂きたいと思います。7ページに唐突にコラムが挿まれているのに違和感があります。</p>
委員	<p>第5章が適切だと思います。また、コラムで済ませる内容ではないと思います。</p>
議長	<p>4ページのコラムはその上の文章と関連していますが、7ページのコラムの意図はありますか。</p>
事務局	<p>どこかに入れたいと思い、今のところに入れているというのが正直なところです。</p>
議長	<p>続いて第2章について、A委員からは「景観の課題が的確か」という意見があり、B委員からは「日常・非日常」の表現について意見が出されています。この表現など、ご意見があればお願いします。</p>
委員	<p>&lt;都市ブランド&gt;の観点から言いますと、全国の市町村は、人に来てもらえるまちや住んでいる人が魅力を感じて満足するまちをどのようにするのかという課題を抱えていると言えます。景観は都市ブランドの大きな要素の1つとなります。川西市のブランド的な特徴として、都市景観と農村集落景観の両方あることが強みです。その両方の良さを引き出し、活かしながら、住んでもらう・来てもらうことにつなげるという戦略が必要です。市のオリジナリティを強く打ち出さなければ、景観計画に特徴が出てこないと思います。</p> <p>大きな方向性として、都市景観と農村集落景観をどのように繋げていくのが大事であり、例えば農村集落が好きな人にアピールする戦略を関連付けて書くのが良いと考えます。また都市景観についても、ワークショップや写真展を通して、例えば近代的景観で市民が好きだというものが出てきているので、今後も企画を続けるとともに、そのような川西市の良さを整理し、独自の景観計画をつくるのが良いと考えます。</p>
事務局	<p>そこを目指そうと考えており、住宅地や自然、駅周辺の繁華街などの良さを意識しているつもりですが、それらを区別して示す方法を試行錯誤しています。その中で、日常・非日常という表現を使っていますが、まだうまくアピールできていないのだと思います。</p>
委員	<p>学問的には「日常・非日常」とは「ケとハレ」であり、祭りなどが非日常となります。川西市の年中行事には歴史的なものから近代的なものまでたくさんあり、前面に出すべきだと思います。休日だけが非日常と捉えても何が魅力か伝わりません。川西能勢口駅周辺は新しいですが、奥にいくと歴史的なものがたくさんあり、すべてを合わせて非日常と言うべきだと思います。例えば多田神社の行事等は外から人を呼べるし、それが好きで住んでいるとも考えられます。もちろん近代的であるため住んでいる方も多いと思います。川西</p>

	市の良い景観やアピールできるものを、まずピックアップするのが良いと思います。
事務局	景観計画を通してアピールすることも目的の1つではあるのですが、できていないのが現状だと思います。
議長	10 ページから「本市の景観の特徴」がありますが、第4章と同じような切り口で自然や都心などと区分されています。李委員のご意見であった、その両方が近くにあることが魅力であり特徴であるという内容が書かれていませんので、ここで強調できると思います。 「非日常」という表現については良いでしょうか。A委員からは、物的な景観だけではなく文化的景観を含めて景観計画を考えるのが良いという提案を頂いています。景観法の内容を超えて、歴史まちづくり法にかかるという印象であります。
委員	「休日」とは、単なる休日だけを捉えていますか。多田神社の行事等はあまり書かれていませんが、行事等を書くことを考えているならば、休日という言葉があるため余計に混乱している感じがします。
議長	12 ページでは、「休日の市民・市外からの来訪者」と書かずに、単純に「市内外からの来訪者」とするのが良いと思います。
事務局	市民目線から考える中で、通勤・通学の平日の行動と休日の行動が異なるというところから出発して整理しているため、そのような分類となっています。
議長	資料2のマトリクスの上の段が、平日・休日・イベント開催時と書かれていますが、ここから引っ張っているということですね。
事務局	資料2ではそのように整理していました。
議長	日常生活圏から外れている場所での祭りや行事の景観ということだと思います。
事務局	あまり特色がなく、区別しないと全部同じ色に見えてしまうため、何とか色を出そうという思いでしていますが、あまりうまくいっていない感じになっています。
議長	用語で引っかかる点ではありますが、「ハレとケ」に分けて考えているということです。12ページの「日常の普段の景観」の一番下にある「安らぎを感じさせる里の景観」は、日常の農業従事者しか楽しめないということではなく、また、「非日常の特別な景観」の欄にもありません。特別ではなくても日常生活圏外で楽しめることもあると思います。
委員	「日常・非日常」について、毎日が日常であり、週・月・季節ごとの出来事や一生の中で特別なことが非日常であると言えます。日常と非日常にこだわりがあるならば、毎日と周期に分ける必要があります。
事務局	分けるというのは、1日の中でも細かくする必要があるということでしょうか。
委員	そうです。そのため、休日と非日常とは異なるということです。

委員	<p>そぐわない表現かもしれませんが、表現としては「オン・オフ」ということだと思います。合理的に短時間で動きたい人が使う道と、仕事や学校が終わってほっとして歩きたい道は違って良いと思われるので、それを平日・休日に分けるのは違うと感じます。むしろA委員が言われたように、それらが両方併存していることが川西市の魅力だと思います。</p> <p>非常に難しいことを要求していると思いますが、整理することで川西市らしい景観のあり様が見えてくると考えられます。</p>
議長	<p>日常・非日常とは、生活者が見る時の価値観で分類することだと思います。「本市の景観の特徴」では、エリアで分けて互いに重ならないようにしていますが、例えば里の景観は、そこで暮らす農業従事者にとっては日常の景観であり、住宅地に住んでいる人にとっては非日常の景観となります。12 ページ下から3段目の「暮らしの近くにある自然景観」に自然景観と里景観を含んでいるとすれば、里景観は2つに分類されることとなります。そういう整理がいいのか、それとも現在の空間で分けるのが良いのでしょうか。</p>
委員	<p>主体別に分類するのが良いと思います。</p>
議長	<p>主体で見るのか、場所で見ると、その仕分けが難しいと思います。</p>
委員	<p>誰がいつどこで見ているのかと、その人たちが何を見ているのかを一次元で整理しているため、範囲が狭められていると思います。</p> <p>主体と場所はクロスしており、縦と横で整理するのが良く、また日常・非日常については、単純に平日・休日ではこう見ていると整理するのが良いと思います。市民が普段の暮らしの中でどういう行動をして何を見ているのか、何を感じているのかという流れを整理し、その結果、市民が景観をどのように感じてもらうようにすればよいかを整理するのが良いと思います。</p>
議長	<p>23～24 ページでも線形に整理されていますが、12 ページでマトリクスを複雑にしまうと23～24 ページで収束できないことも懸念されます。</p> <p>マトリクスでは、全てのマスでなくてもいくつかの主なマスに分けて、そのマスを縦に並べるという整理はできると思われれます。</p>
委員	<p>マトリクスでは縦軸に生活シーンを、横軸に場所をとり、収束させるのは横軸だと思います。生活シーンの場所や見る対象はいろいろありますが、施策は場所にしか打つことができません。この場所で施策を打てば、生活シーンがこうなるということだと思います。そのような整理は一応つくと思いますので、最終的な整理は場所ごとに収束されるのだと思います。</p>
議長	<p>意見を参考にしてください。23～24 ページでは主体別に書くことになるかもしれませんが、また第5章では、市民が主体となり、ここに住んでいる人はこのように景観づくりに関わってほしいということを書くことになると思われれます。それは、また別の意図で書くのが良いか、市民向けのパンフレットをそのような構成とするのか、もしかすると両方必要なのかもしれません。</p>
委員	<p>12 ページは「景観の現状」と「景観の課題」の間に位置していますが、市民の意見を聞</p>



	<p>いた上で整理しているという流れが良いため、「市民の意識」の後に位置するのが良いと思います。また、第3章の基本理念では、市民意見を重視している姿勢を見せるのが良いと思います。</p>
事務局	<p>市民目線という考え方で、実態に即した意見を踏まえたものにしようと考えていたの で、「市民の意識」の後とすると収まりが良いと思います。</p>
委員	<p>「市民の意識」について、ワークショップや市民アンケートの結果を入れることを検討し ていますか。</p>
事務局	<p>入れる方向としています。</p>
委員	<p>景観計画というよりも報告書のようにっており、議論の本質的部分が出てこないため わかりにくい印象を与え、景観計画の目指しているところは何かという話になっていると 思われます。ワークショップや市民アンケートの結果は、計画策定の背景なので、景観計 画としてはシンプルにし、「景観の現状」や 16 ページ以降を抽出するのが良いと思いま す。来年度のパブリックコメントでも、読んでほしいことは「川西市の景観はこれを目指し、 市民の生活シーンではこのように見えるようにしたいので、こうします」ということだと思わ れ、その背景は資料編にしても良いと思います。</p>
事務局	<p>全体が重いと肝心な「基本理念」のところに目がいけないという欠点があり、そこを重 視する構成にしたいと考えています。しかし、「基本理念」が唐突にならないよう、背景も 説明する必要があると考えています。たくさん書きすぎるといけないと思いましたので、資 料編にデータ等を載せるなど、書き分けをしていく必要があります。</p>
委員	<p>先ほど、ワークショップの結果を入れるのが良いと言いましたが、実施したことを記録と して入れるのが良いということであり、必ず「市民の意識」に載せてほしいということでは ありません。また、実施したものがあるにも関わらず、15 ページのコラムは付け加えのよ うに入っていると感じます。資料編のバックデータとして入れることは賛成ですが、わか ざ他の調査から引用しなくても良いと思います。</p>
事務局	<p>まだ整理できていないと思います。</p>
議長	<p>「市民の意識」の書き方や、それを踏まえた「市民の視点から見た生活シーン」の書き 方とつなぎ方をまた考えて頂き、次回の本編を見ながら議論したいと思います。</p>
委員	<p>「景観の課題」は、景観まちづくりの今後の課題を整理したということでしょうか。現在 の課題について触れていないのは問題があると思います。例えば、歴史的な景観につい て、今まであった伝統的な建物等がなくなり建売住宅等になっているなどの危機的状況 があると思います。リアルな課題を書くと、川西市の個性へとしっかりつながるのではな いかと思います。</p>
事務局	<p>「景観の課題」では、課題となるようなことがあまり書かれていないと感じます。</p>
委員	<p>良いところだけでなく、悪いところもしっかり書く必要があります。</p>

議長	<p>市としての問題認識を考えて頂きたいと思います。</p> <p>細かいことですが、14 ページ 10 行目に「屋外広告物の簡易除却」という言葉が唐突にあり、専門的で難しいと感じます。</p>
事務局	<p>屋外広告物法にある言葉ですが、唐突にあるとわかりにくいということでしょうか。</p>
議長	<p>本質的なところではないので直して頂きたいと思います。</p> <p>第3章についてはいかがでしょうか。事務局の説明では、参考資料で「景観まちづくりの基本理念の検討案」があり、ここにある「美しいまちを“未来のふるさと”へと育み わたしたい」というフレーズを基本理念としたいということによろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>基本理念を先につくるのが難しいと感じており、そうしています。</p>
議長	<p>広く市民から募集するという考えもあるかと思います。市民アンケートで聞く予定としていますか。</p>
事務局	<p>そうです。十分な検討材料を揃えて決めたいと思います。ワークショップの意見を踏まえて考え、今回の案をつくり示しています。</p>
議長	<p>16 ページの下段に基本理念を説明する文章がありますが、ここでも、川西市の景観をこうしたいということを反映していくことになると思います。</p>
委員	<p>第3章と第4章の順序が異なり、第4章が先ではないでしょうか。類型が先にあり、目標があとに出てくるといった流れだと思われます。</p>
事務局	<p>地形的に川西市を捉えて類型とするのが通常だと思いますが、今回は市民視点を前面に出し、生活シーンと類型を結ぶため、順序が逆という感じがするのだと思います。</p>
委員	<p>市民主体としたため、この順序になったということですか。</p>
事務局	<p>そうです。「景観の現状」などで地形的な説明を詳しく書くのが通常だと思いますが、それを先にすると、市民目線での景観と混乱すると心配していました。今回のテーマとして、地形的ではなく市民視点から景観を捉えたいということで、この順序としていますが、逆だと感じる原因だと思われます。</p>
委員	<p>市民主体ということであれば、第1章から川西市の良い景観はこうだと出すのが良いと思います。いきなり目標が出てくると、何に基づいた目標なのかがよくわかりません。</p>
事務局	<p>景観の課題を受けた目標にしたいと考えています。また、今は目標を細かく括る書きぶりとなっていますが、もう少し集約したものにしたいと思っています。</p>
委員	<p>まず基本理念があり、目標はそれに基づいたものとしなければいけません。そうでないと、目標ありきということになってしまいます。もちろん、目標から基本理念を決めるという方法もありますが、基本理念と目標は必ず関わりがあり、基本理念と目標がばらばらではおかしいと思います。</p>

事務局	<p>思いとしては目標の4つであり、それをうまくメッセージとして響くキャッチフレーズが、この基本理念の言葉だと思います。</p>
委員	<p>基本理念というのはキャッチフレーズということで良いですが、参考資料にある「美しいまちを“未来のふるさと”へと育み わたしたい」としたいということですか。</p>
事務局	<p>まだこなれていないという思いもあります。</p>
委員	<p>この基本理念に基づいて4つの目標があるということになりますか。</p>
事務局	<p>そうあるものとして基本理念を考えつつ、目標についても、基本理念との関連を考えて直す必要があると思います。</p>
議長	<p>市で原案をつくらないと意見がまとまらないと思います。</p>
事務局	<p>ワークショップの意見を踏まえた段階であり、検討していきたいと思います。</p>
委員	<p>基本理念では、コピーライターのような文章を書く必要はなく、基本となることを下手な文章でいいから忠実に書くのが良いと思います。川西市の都市戦略と市の資源の両者を合わせて、こういう景観を目指すということがあればよいと思います。基本理念を読む人によって解釈が違うというのは良くなく、コピーだけが先行するというのも良くありません。</p>
委員	<p>まちづくりの目標では、行為・行動を目標としているのか、形態としての着地点を目標としているのかがよくわかりません。つまり、行政がこれをする、市民はこれをしてくださいという行動を求めているのか、それとも最終的な形としてこうしたいということを言いたいのか、よくわかりません。</p>
事務局	<p>両方だと思います。景観計画では、こうあるべきということを示すとともに、行為の制限について、また市民意識を醸成したいという考えを示す思いがあります。対象は事業者であり、また市民であると、両方欲張って書きたいと思っています。そのため、目標2と3は事業者向けであり、目標4は市民向けとしており、目標1はすべてに対してふるさと意識を通じて幸せにつながるという思いを書いています。</p>
委員	<p>基本となるものをしっかり書かないと、何に対して欲張っているのかわかりません。始めから言うように、川西市という主体が欠けている印象があります。</p>
委員	<p>目標3では「豊か」という言葉が出ており、目標2で「誇り」という言葉が出ています。しかし目標2の個々の項目の中に「豊か」という言葉が出てきます。こういったことも起こると思いますが、では、その豊かさは誰のためか、また何のためにそれを求めるのかという最終的な目標がないため、漠然とした印象を受けます。最初の議論に戻りますが、住民の数を維持し人を呼び込む、そのためにもまちを美しくする、子どもたちのために維持する、農業を維持するという目標があって、そのために市民は何をすべきか、行政は何をするべきかということにつながるべきだと思います。</p>

議長	基本理念が書けておらず、また4つの目標の位置づけが示されていないということだと思います。目標は、まだ検討段階かもしれませんが、羅列的に並んでおり、特に目標2は場所別に羅列的に並んでいるだけなので、精査する必要があります。
事務局	目標の書きぶりは改善したいと思います。
議長	第4章に入ります。A委員からは地形による類型はこの位置がよいかという意見がありました。「類型の考え方」はありますが、なぜ類型別に方針や施策を考えているのかという理由の説明がないと思われます。
事務局	第2章の「本市の概要」と重複していると思われます。
議長	第4章の「類型の考え方」を第2章に移せないことはないかと思います。
事務局	一旦「本市の概要」で触れているため、そこに「類型の考え方」を移すのが良いということでしょうか。
議長	仮に移動するならば、そういうこともできるということです。なぜ類型を出し、それごとに景観施策を打つべきかという理由がありません。23 ページ以降に類型別の施策が急に出てきていると感じます。
委員	<p>「類型の考え方」について、「(1)地形による景観類型」があれば、(2)には地形と並列できる別の類型が出てくるはずですが、実際は別の内容のものが出てきています。類型は地形しかないのかと、その分け方に疑問があります。</p> <p>第2章のマトリクスの議論に関連して、景観は大きく、自然景観と生活景観、農村集落景観と都市景観、日常的な景観と非日常的な景観、さらに点と線と面の景観に分けられると思われ、これらのマトリクスをつくってほしいと思います。また、景観を地図に落とししたものはありません。景観を地図上でレイヤー分けすると、それらが重複する地域としない地域がわかり、また仮に何もレイヤーがない地域があるならば、この分類はおかしいとわかります。</p> <p>それとは別に、景観はただ見るだけではなく、景観をつなぐという考えも必要です。最近のキーワードとして「ウォーカビリティ」、すなわち回遊性があります。川西市の良い景観を面・線・点に分類して、それらをつなぎ回遊してもらうことも大事であり、市民主体という面からも大事なポイントだと思います。例えば、能勢電鉄や車、徒歩でつなぐ方法があります。ウォーカビリティを考える際、徒歩 10 分以内を想定してどのようにつなぐかということ、また、その領域をいくつか設定することが大事です。</p> <p>それらに関する説明がありません。また、分類が非常に細かいところと、まったく分類できていないものがあると感じます。</p>
事務局	景観基本計画がもともとあり、細かく言えば、中心市街地を1つの類型としているなどの変更はありますが、それをベースとしています。しかし、面と点の景観を同列に並べることへの疑問だと思われますが、難しいと感じています。
委員	すべてが混ざっており、大きく現況編と計画編に分けるとシンプルになると思います。現況があり、市の方針や戦略に基づいて計画があるとなれば良いと思います。例えば、

	<p>20 ページの類型の分類表でも現況と計画が混ざっており、分類できないのではないかと思います。</p>
事務局	<p>第3章を境に現況編と計画編に分けているつもりでしたが、19～20 ページは現況の内容となっていると感じます。</p>
委員	<p>現況編では川西市の良さや市民が好きな景観、課題などを整理し、川西市の景観の現在がわかるようにすべきだと思います。計画編には回遊性の考え方を入れ、市民と来訪者に、どのようなホスピタリティを提供するかということを入れてほしいと思います。また、計画編には景観コントロールについても入れて、川西市として何をを目指すのかをわかりやすく整理するのが良いと思います。</p>
議長	<p>本来は現況編が別冊にあり、そのエッセンスが第2章に出てくるという考え方だと思います。市には景観基本計画があるため、その類型を景観計画でも踏襲したいという考えがあるということで良いですか。</p>
事務局	<p>ある程度は踏襲しつつ、この機会に整理し直すことも考えたいと思っています。</p>
議長	<p>見直しを考えたいのであれば、現況編の分析データを示して頂き、本編をつくる前の議論をする必要があります。バックデータがなければ、見直しはできません。市の方針が出されているので、それに基づいて我々は議論していますが、そこまで戻って議論するならば、調査結果と現況編の資料をつくって頂く必要があります。市の方針として、景観法を使うため、条例等をベースに少し変更を加えて景観計画に移行したい、また 19～20 ページは、既に現況分析があり、それに基づく成果だというような合理性を説明して頂ければ良いですが、それらがまだ整理されていないということであれば、我々もダメだということになります。</p>
委員	<p>会長の意見どおりにしようとするれば、例えば我々がハサミで切って編集する作業をすれば簡単にできると思います。この議論のままでは終わりません。</p>
議長	<p>景観法を意識した景観計画では、回遊性の考えは景観法のメニューに載っているのではなく、プラスアルファとして戦略的に打ち出していくということになると思います。すべてが第4章に入ってくるのではなく、第5～7章は景観法のメニューへの対応が主になってきますので、戦略的な景観まちづくりの方針の内容がどこかに入ることになるかと思っています。</p>
事務局	<p>景観法に沿った構成にしようとしているので、戦略的な部分は抜けていると思います。地形の考え方についても、もう一度検討し直したいと思います。</p>
議長	<p>現況編と計画編をきちんと分けるのであれば、19～20 ページは第2章にあっても良いと思います。次に、類型に基づく景観の特徴がきて、類型別の課題や類型で区切らない課題、市民の意識となり、市民の視点で参加頂ける計画をつくりたいのでこのような編成にしますという生活シーンの考え方があり、第3章につながるという流れになると思います。ストーリーを市民にどのように訴えて理解して頂くのかということが、計画づくりの一番難しいところであると思います。</p>

	<p>また、市の大きな戦略をどう入れ込んでいくかということ、第4章の頭に上手く整理することができれば良いと思いますが、難しいところだと思います。</p>
事務局	<p>12 ページの「市民の視点から見た生活シーン」が大事なところだと考えています。川西市は優れた景観がたくさんあるということではなく、普段の景観がきれいだということに大事にしたいと思っており、その中で普段歩いている時の景観、回遊している時の景観というのが入ってくると思います。ここをきちんと書き込み、シーンごとにこういうことをしていくところを打ち出していきたいと思います。</p>
議長	<p>地形を重視したこれまでの類型を踏襲するということで良いですか。</p>
事務局	<p>それを前提として考えることで良いと思います。</p>
議長	<p>生活シーンと類型をマトリクスで整理した上で第3章につないでいかないと、整理できないと思います。</p>
事務局	<p>整理する中で、名称の変更などはあると思います。</p>
議長	<p>22 ページに取ってつけたような説明があり違和感があります。前段ですんなりと説明されていて、施策の体系が見えるようにして頂きたいと思います。</p> <p>現在の本編で足りないのは、市の思いと戦略的な内容であり、景観法のメニューだけでは足りないと思いますので、他の計画等と組み合わせて、少し踏み込んだ部分を出していくということになると思います。そのため、次回までにつくり直して頂き、大変ですが整理して頂きたいと思います。川西市の都市計画マスタープランの策定時にも委員長をさせて頂きましたが、このプロセスに2回3回と行ったり戻ったりした経験があり、難しいと思うところです。</p>
委員	<p>28 ページの「中心市街地景観」について、屋外広告物との連携は避けて通れないと思っており、川西市では中心市街地景観のところ屋外広告物の問題が出てくると思います。法律は異なりますが、屋外広告物との連携について景観形成方針に入れておくのが良いと思います。</p>
議長	<p>「景観の課題」では出てきていたと思います。</p>
委員	<p>問題意識としては出てきていますが、方針にはなかったもので、入れておくのが良いと思います。</p>
議長	<p>夜間景観については考えていませんか。大阪市ではデジタル・サイネージやプロジェクション・マッピングなど、これまでと全然違う形の広告が現れてきており、その扱いが課題となっています。</p>
事務局	<p>夜間は電気が消えており、問題はないと思います。</p>
委員	<p>消極的な面だけではなく、例えば夜間景観を活かして人を呼ぶという面もあると思いま</p>

	す。
事務局	屋外広告物は県の屋外広告物条例で扱っているのが現状であり、その条例に即してということになるため、市では踏み込んでいない部分としています。
委員	他の市では、景観審議会と屋外広告物審議会を一緒にしようという動きも出てきていますので、避けてはいけないテーマであるため、考えて頂きたいと思います。
議長	市民アンケートについての議論に移ります。アンケートは、審議会の意見を受けてすぐに実施できるように準備をしていると伺っています。無作為で3000名抽出し、市内在住の16歳以上の方に配布するという事です。郵送ですか？
事務局	郵送です。
委員	お住まいの地域、学校や勤め先、近くの駅ということがないと、どこの景観について答えているかわからないのではないのでしょうか。
事務局	問1 - 4にて居住地の特徴を聞いています。
議長	職業も聞かないのでしょうか。
事務局	聞いていません。前回委員の皆さまにお伺いした時に、複雑という意見が多かったため、できるだけシンプルにするということで設問を考えています。
議長	職業は聞くのが良いと思います。
委員	文章ではなく地図をつけて直接書いてもらう方法もあります。
委員	調査対象が無作為抽出では良くないと思います。農村と都市に住む人の答えは異なり、半々に分けて配布すべきではないのでしょうか。都市の方が多くなり農村の方が少ないと、集計でバランスが悪いと思います。
事務局	問1 - 4の設問は住んでいる場所ごとのクロス集計を意識して設定しています。
議長	無作為抽出では都市と農村が同じ比率ではないので、農村の方の意見が少なくなることを危惧しての意見だと思います。
事務局	農村の方に何人と予め枠を設けることになると思いますが、抽出の方法が困難となります。
議長	居住地ごとに無作為抽出はできないのでしょうか。
事務局	それはできるかと思われず。
議長	居住地ごとにサンプル数を決めておけば、A委員の意見の答えになると思います。

委員	結果として農村と都市の方の回答が1:9となつては、市民アンケートの意味があまりないと思います。
議長	無作為抽出では川西全体の世論としての把握はできるかもしれませんが、
事務局	無作為抽出では、市民の実際の割合によって結果を把握できると思いそうしています。
事務局	市全体で概ね約4割がニュータウンの住民であり、残りの6割が既成市街地の住民となっています。市街化調整区域の集落の住民となると、その6割の中でも少数だと思われます。
委員	問2 - 2と問2 - 3について、景観計画が定まっていないのでこのような設問となっていると思いますが、問題があると思います。日常で大切にしたい景観として、「住宅地」「道路・鉄道」「駅周辺」だけでは、例えば多田神社周辺の農村に関しては、どこで答えるのでしょうか。日常・非日常と設問を変えてしまうと、比較することができないと思います。非日常は「自然」「歴史」「施設」となっており、その分類で良いのでしょうか。
事務局	本編で類型を抽出するので、それに合わせるのが良いと思います。
委員	類型が固まれば、類型ごとに聞くことで良いと思いますが、また、農村と都市の回答が1:9になるとすると、農村に近い場所の項目の回答数が低くなるのは明らかです。その結果「低い」と分析するのはおかしいのではないですか。
委員	市民アンケートの条件として、類型は前提なのでしょう。それとも類型はないものとして出すのでしょうか。これまでの議論では類型を前提としていましたが、市民アンケートで類型がなくなると、得られた結果をどこに反映するつもりですか。
事務局	類型に近い設問としていますが、名称が半端になっているだけかと思われます。
委員	類型の中の課題や、類型の外に住む方から見て、その景観がどうなってほしいのかが明確になるのが良いと思います。
委員	都市と農村に対象を分けた設問があれば良いですが、今のままでは市民アンケートの意味がないと思います。川西市の良いところは、都市と集落が近接していることです。それを消極的に捉えている節があるため、積極的にアピールするのが良いと思います。そのため、市民アンケートでは集落の意見が出てくる必要があります。
事務局	集落というのは、里の地域ということでしょうか。
委員	そうです。無作為抽出では集落の回答が少ないため良くありません。
事務局	技術的に抽出はできるのでしょうか。



事務局	人数割合では絶対的に少ないと思われます。問1 - 4でクロス集計して、集落の傾向を把握しようと考えています。
事務局	集落の母数が少ないとクロス集計もできないのではないのでしょうか。
議長	問2 - 2では、集落に対する選択肢がなく住宅地が主になっています。しかし、問2 - 2と問2 - 3を合わせて選択肢が 20 個程となると回答者にとって読むのが大変になるため、整理して頂きたいと思います。
事務局	類型を前提として計画に反映できるよう整理します。また、抜け等がないか確認し、選択肢が多くならないように整理していききたいと思います。
委員	調査票作成要領では現状評価とありますが、それが偏っていることが課題です。
議長	問2 - 4では、場所が特定できそうな設問と「周辺のまちなみと調和していない建物がある」などどこにでも当てはまる設問があり、それを聞くのは効果的でないと思います。問2 - 2と問2 - 3ではプラスを聞き、問2 - 4でマイナスを聞くならば、対照となるように整理して頂きたいと思います。 問3 - 2について、植栽について聞いていますが、エクステリアや門、塀・柵、ガレージなどは、住宅地に限ると景観に影響があります。 問3 - 4の設問では「お答えください」としていますが、選択肢は「重要 / 重要でない」となっているため、対応していません。直して頂きたいと思います。
委員	最後の設問のキャッチフレーズは、市民は答えにくいと思います。本編の議論でもありましたが、基本理念やキャッチフレーズは市から提示するものであり、市民には今後も守っていききたいものなどを求める自由意見にするのが良いと思います。
事務局	キャッチフレーズは出にくいと考え、もしあればということで聞いています。
委員	せっかく市民アンケートをするならば、有益な回答が得られる設問にして頂きたいと思います。
議長	その上の自由記述の設問の回答欄を大きくし、「将来の川西の将来像を一言で表すキャッチフレーズがあればお書きください」など、追加で書くことで良いと思います。
委員	市民アンケートでは市民の貴重な回答を聞き出してほしいと思います。キャッチフレーズを聞いても、書いてくれる人はいると思いますが、少ないと思うので、より具体的な設問にして欲しいと思います。
事務局	その上の設問も漠然とした内容ですので、そこを含めて整理したいと思います。
議長	意識の高い方は、設問の中で言いたいことをすべて書くことができないと不満を抱き、自由意見のところたくさん書かれてくることがあります。
委員	重複した設問にすると、書きたいことがないと不満となることがあります。例えば川西市

	<p>の地図を用意し、愛着を感じる場所を面・線・点で書いてくださいという問いを設けると、市民の意見を把握する最も有効な方法になると思います。</p>
議長	<p>そのように感じる理由も併せて聞けると良いと思います。</p>
委員	<p>ワークショップでは、地図を開いて景観について聞いており、参加者も盛り上がっていました。そのように聞けると面白いと思います。ワークショップでは、意外と都市だけでなく里山の場所に意見が集まっていました。市民アンケートでも、都市の方であっても里山に関心があるとわかるかもしれません。</p>
委員	<p>市民の意識が高いため施策をするのか、それとも市民の意識が低いが大事な場所であり、そこに目を向けてもらうために施策をするのか、市民アンケートの狙いがどこかを明確にする必要があります。</p>
議長	<p>本編では、生活シーンを大事にして様々な方に景観づくりに参加してほしい、身近な景観に注意を払ってほしいという計画にしたいということでした。そのため、身近な景観資源を抽出し、景観施策への関わりについて聞くのが良いと思います。市民アンケートは現状把握なので、例えば大事なところに全然注意が払われていないという結果も成果の1つとなると思います。</p>
委員	<p>このアンケートの出し方には、行政側の狙いを伝える前に、市民の意見を聞いてから計画をつくるというアンケートとすべきという意識があると感じます。しかし行政としてこのアンケートには狙いがあるわけであり、それに対する意見を知りたいということが市民にわかると良いと思います。</p>
委員	<p>最初の市民アンケートのお願いの部分に、市の考えや市民アンケートの狙いを書くと良いと思います。その意図をしっかりと書いていないと、何のために実施するのかと抗議されることもあります。</p>
事務局	<p>前回お示したものでは、ふるさとへの愛着や誇りを醸成する、美しい景観を守る、次世代へ継承することを目指すとしています。</p>
委員	<p>この景観計画では、最初から最後まで市民が主体と書かれており、行政から市民への流れは、立派な考え方だと思います。市民アンケートでは、そこを強調し、市としての考えを明示し、市民の意見を聞いて参考にすることを書いてほしいと思います。それと、市民から聞いた意見をどう公表していくかも重要です。まず、結果をまとめてそれに対する市の考えを公開し、再度計画に反映するというプロセスを取った方が良いかと思います。</p> <p>全体的に出口戦略がないと感じます。景観計画に出口戦略としてのアクションプランがないため、あいまいに見えます。具体的な事業があるならば、市民の皆さんの意見を踏まえて検討したいという流れにして頂きたいと思います。</p>
委員	<p>現在ニュータウンを中心に、学生や小学校等の卒業生などが主体となって、イベントなどの取り組みを行っているグループがあります。市民アンケートで職業を聞くことで、景観に対して関心を持つ年代を読み取ることができると思います。</p>

議長	<p>問3 - 3、問3 - 4について、「重要である」「あまり重要でない」という中間の選択肢を設けると、市民の方はそれを選択することが多いと思います。重要か重要でないかの2択としてその理由を聞くのはどうでしょうか。問2 - 1についても同様です。回答をはっきりと聞くため、中間の選択肢をあえて無くすのも良い方法だと思います。</p> <p>多くの意見が出ましたが時間が過ぎていますので、このあたりで議論を終えます。意見を反映して整理して頂き、メールにて委員に回覧して頂きたいと思います。</p> <p>たくさんご意見頂きありがとうございました。意見を反映し、また市の方針を形づくって頂きたいと思います。庁内調整もあるかと思いますが、景観行政を進めるという自負を持ってつくって頂きたいと思います。</p>
事務局	<p>次回は2月頃を予定しています。庁内検討会議を行い、審議会で議論できるように準備したいと思います。</p>